

授 業 科目名	法学政治学演習	※選 択	開講年次	2	単位数	3
科目区分	専門科目					
サブ タイトル	刑法各論を学ぶ	担当者	二本柳 誠			
講義概要	<p>【概要】 議論することを通じて、刑法各論を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 具体的な事実に刑法を適用し事案を解決できるようになることが刑法を学習する際の究極の目標ではあるが、この演習での到達目標は、それよりも前の段階である、刑法各論の重要な論点について、なぜ、どのように見解が対立するのか、それは刑法の基本原理・原則とどのような関係があるのかを理解し、議論できるようになることに置く。</p>					
履修条件	「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】曾根威彦『刑法の重要問題[各論]第2版』(成文堂、2006年)</p> <p>【参考書】曾根威彦『刑法各論[第4版]』(弘文堂、2008年)</p> <p>大塚裕史『刑法各論の思考方法〈第3版〉』(早稲田経営出版、2010年)</p>					
授業内容	<p>指定の教科書をベースとした演習を行う。各回の冒頭に担当者が話題を提供するので、学生は、自分の意見を述べるのが求められる。扱う予定のテーマは下記の通り。</p> <p>人の始期と終期／殺人罪と自殺関与罪の限界／傷害罪と暴行罪の関係／ 遺棄罪とひき逃げの罪責／刑法における業務概念／自由に対する罪／ 住居侵入罪の本質／名誉棄損罪における事実の証明／刑法における財物の意義／ 窃盗罪の保護法益／不法領得の意思／刑法における「占有」の概念／ 強盗罪の諸問題／事後強盗罪・強盗致傷罪／詐欺罪の諸形態／ 権利行使と恐喝／不法原因給付と詐欺・横領／横領と背任の区別／ 不動産の二重売買と二重抵当／親族間における財産犯／刑法における「損壊」の概念／ 騒乱罪における共同意思／放火罪における公共の危険と焼損／ 往来危険罪の結果的加重犯／文書偽造罪における「偽造」概念／ 公務執行妨害罪における「職務行為の適法性」／犯人蔵匿・証拠隠滅・偽証の共犯／ 偽証罪における「虚偽の陳述」／公務員職権濫用罪／収賄罪における公務員の職務権限</p>					
評価方法	平常点による。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	教科書、六法を持参すること。議論とはどのようなものかを事前に学ぶために、「NHK DVD ハーバード白熱教室」を視聴しておくことを推奨する。 ※Eカリキュラムの学生は選択必修科目					